

さいたま市立内谷中学校



教育目標 ・進んで学ぶ ・心豊か ・たくましく

令和元年11月29日

第466号

〒336-0034 さいたま市南区内谷 6-10-1 電話 048-861-7571 <http://uchiya-j.saitama-city.ed.jp>

「自分以外のことのために」

校長 丹 能成

さいたま市では、学校、家庭、地域社会において、コミュニケーションの基礎となる『心を潤す4つの言葉』を推進しています。

『心を潤す4つの言葉』～見えない言葉を伝えよう～

「おはようございます」(元気よくあいさつをしましょう。)

「はい」(しっかりと返事をしましょう。)

「ありがとうございます」(感謝の気持ちを表しましょう。)

「ごめんなさい」(素直な気持ちを表しましょう。)

人は、心と心の触れ合いを通して幸せを感じます。生徒、職員の皆さん、これからも積極的に気持ちのよいあいさつや返事、心をこめた素直な言葉を交わしてお互いに心を通わせ合い、笑顔あふれる内谷中学校をつくっていきましょう。保護者、地域の皆様にも、御協力をお願いいたします。

さて、先月10月28日(月)に開催した「合唱祭」では、学校評議員の皆様をはじめ、地域、保護者の皆様には、御多用の中、会場のさいたま市民会館おおみやまでお越しいただき、誠にありがとうございました。また、PTAの本部役員、委員の皆様には、受付や誘導、記録等、大変お世話になりました。当日は、各クラスの素晴らしい合唱に最初から最後まで感動の連続でした。1年生、初めての合唱祭で戸惑うことも多かったと思います。仲間と力を合わせて本当によく頑張りました。2年生、元気よく、まっすぐな歌声に大きな可能性を感じました。2年生の今後がとても楽しみです。そして、3年生、流石としか言いようがありません。最後の合唱祭にかける3年生の思いがひしひしと伝わってきました。改めて内谷中学校の子どもたちの素晴らしさを実感しました。

合唱祭の翌日、10月29日(火)には、駒場運動公園競技場を会場に「さいたま市中学校駅伝競走大会」が開催されました。降りしきる雨の中、学校のために、そして、一緒に練習してきた仲間のために、全力を振り絞って走る選手たちの姿に胸が熱くなりました。駅伝候補選手として練習に参加した生徒の皆さん、本当に御苦労様でした。

2017年に105歳で亡くなられた医師の 日野原 重明(ひのはら しげあき)さんは、亡くなる10年程前から、子どもたちに命や平和の大切さを伝えるため、日本全国各地の小学校を訪問して「いのちの授業」を始めました。授業を通して、日野原さんは、子どもたちに、「いのち」とは「自分が使える時間」のことであり、世の中をよくするために、「人のために自分の時間を使えるような人」になってほしいと訴え続けました。また、日野原さんは、95歳のときに作った絵本「いのちのおはなし」の中で、人が生きていくうえで大事なものは「いのち」と「こころ」であり、お互いに手を差し伸べ合って、一緒に生きていくことが、「こころ」を育てるということであると、自分以外のことのために、自分の時間を使おうとすることの大切さを訴えています。

合唱祭に向け、子どもたちは皆、クラスの仲間のために、自分の時間を使って一生懸命練習に取り組みました。また、駅伝候補選手の子供たちは皆、学校のために、自分の時間を使って一生懸命に練習に取り組みました。

これからの時代、AIでは代替することのできない「豊かな人間性」が、これまで以上に求められます。子どもたちには、毎日の生活の中で、少しでもいいから、自分以外のことのために、自分の時間を使うことを意識しながら、「こころ」を育てていって欲しいと思います。

『心を潤す4つの言葉』を伝えること、これも人のために自分の時間を使うことだと思います。